22. 東西・南北の交通－近世山陽道と千種川－

【ストーリー】

千種川は、古くから南北の交通を担った川の道。近世に川を上下した高瀬舟は、米や塩など生活物資を運ぶ重要な手段であった。一方、陸路は東西を結ぶ街道や古道があり、中世に筑紫大道が、近世には参勤交代で利用された西国街道が通じていた。

近代になるまで千種川に橋は架けられず、交通の障壁であったが、その一方で、川待ちの人々を泊めるための宿場町「有年宿」が栄えた。

近代には、高瀬舟による物流は軽便鉄道の赤穂鉄道に取って代わられた。明治 23（1890）年に開通した国鉄有年駅は、軽便鉄道の貨物の積み替えの拠点となり、駅前の有年横尾は多いに栄えた。現在も国道 2 号が東西を貫く有年地区には、古代から現代に至るまで交通の要衝であったことを示す歴史文化遺産が数多く残されている。

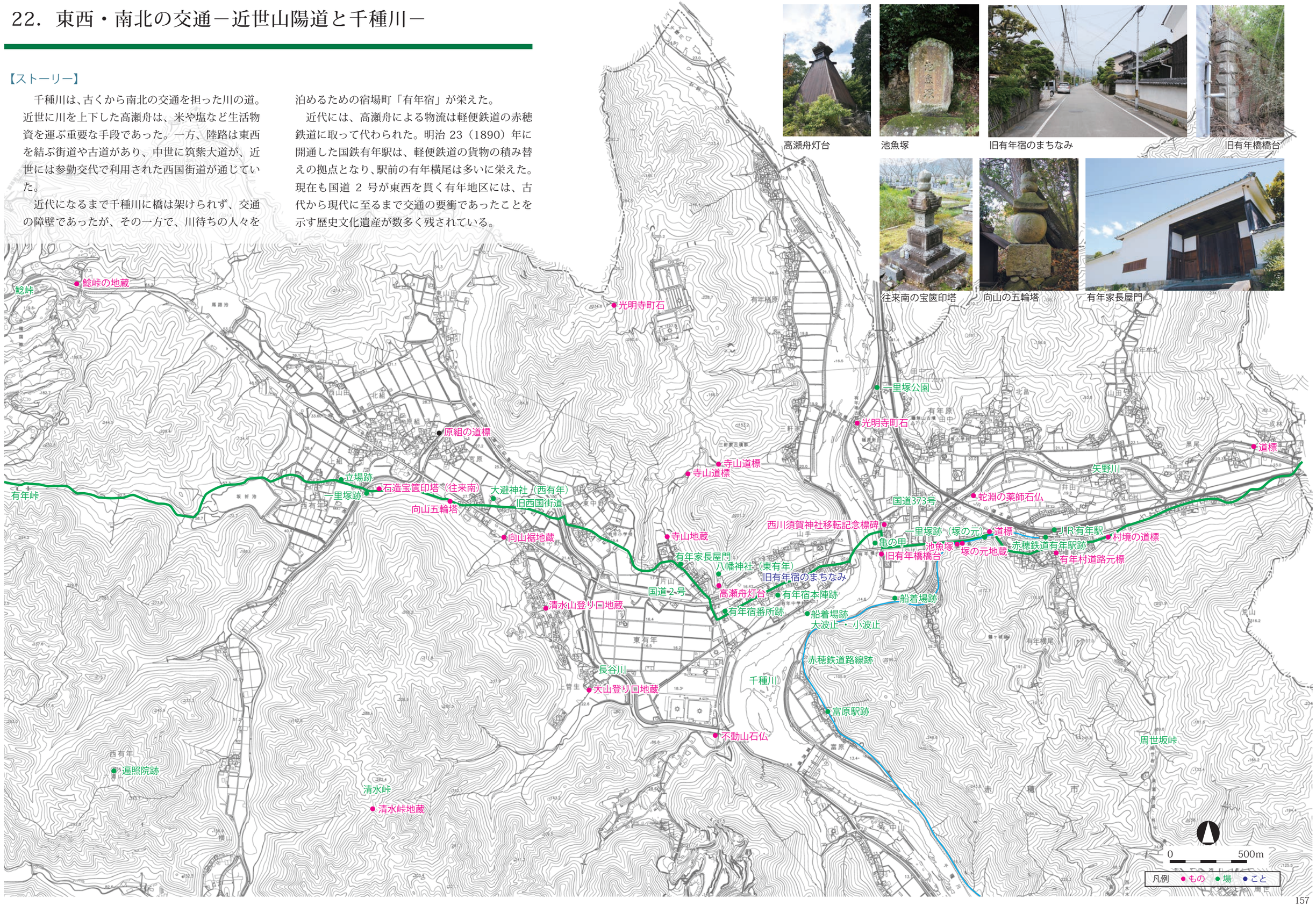
高瀬舟灯台

池魚塚

旧有年宿のまちなみ

旧有年橋橋台

往来南の宝篋印塔

向山の五輪塔

有年家長屋門